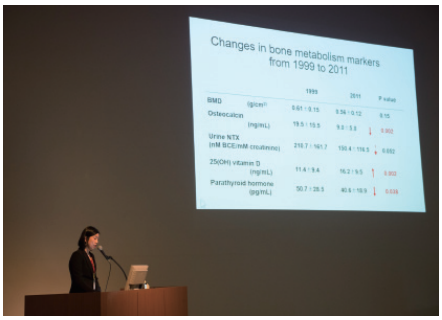
Topics 国立病院総合医学会セッション

同世代の研究発表を通して刺激的な交流を
若手医師フォーラム



国立病院機構に所属する若手医師が取り組んできた症例や研究を発表する場として2013年からスタートした「若手医師フォーラム」。今回は全国から27演題の応募がありました。最優秀賞に輝いた2人の先生にお話をうかがいました。

「オーラルセッション」最優秀賞

Renal hypouricemia complicating with nephrotic syndrome in 5-year-old boy

埼玉病院 小児科　大西卓磨

――発表の動機、テーマとポイントは?

テーマは、小児で腎性低尿酸血症とネフローゼ症候群を合併した症例の報告です。どちらの疾患も急性腎障害を起こしうるため、注意が必要ですが、PubMedで検索しても、同様の症例は成人例しか見当たらず、小児では過去に報告がありませんでした。珍しい症例を経験したので報告させていただきました。

今まで学会発表での受賞経験がなく、1度はこういったコンテストで受賞してみたいと思っていたので応募しました。副賞も魅力的でしたね。

――英語での口演の感想、苦労した点は?

私は日本語での発表であれば、原稿を作らないのですが、今回は英語でのプレゼンテーションなので、しっかり原稿を作成し、ほぼ暗記して臨みました。質疑応答の準備は、特に入念に行いました。結果的に私自身が症例についてかなり深く学ぶことができて良かったです。

準備はとても楽しかったものの、伝えたいことが多すぎて、何度練習しても6分以内にまとめることができず、内容を削るのに苦労しました。

プレゼンは少し詰まってしまう部分もありましたが、予定通り実施できました。問題は質疑応答で、質問に対する答え（Yes or No）をまずハッキリ言い、その後、理由を述べるという流れを意識していたのですが、実際は答えを明言せず、だらだらと意見を述べてしまいました。もっとスマートにコンパクトに答えるべきだったと反省しています。

英語で抄録を書くところから始まり、プレゼンの準備からポスターまで作成し、本当に良い経験でした。少しでも興味がある方は参加することをお勧めします。

――参加して良かった点は?

私は小児科医なので、最近、参加するのはほとんど小児関連の学会ばかりでした。今回、いろいろな科の先生方の発表をお聞きし、大変勉強になりました。特に臨床研究については斬新な視点のものが多く、今後の自分の研究テーマを決める上で参考になる点がたくさんありました。

とても貴重で必要な場だと思いますので、「若手医師フォーラム」は、これからも是非続けていただきたいですね。

――今後の目標を教えてください

医師としては1人1人の患者さんと真摯に向き合うことを大切にしています。小児感染・免疫を専門にしていますが、小児科全般をまんべんなく診られる医者でありたいと考えています。

今後は小児科関連以外に、臨床研究に関するセミナーなどにも積極的に参加したいと思っています。将来は臨床留学もしたいですし、国際学会に行ったことがないので、とにかく大きい学会に参加してみたい。日本の学会とどう違うのか、是非体験したいですね。

「オーラルセッション」最優秀賞

Disrupted bone metabolism in long-term bedridden patients

西新潟中央病院 小児整形外科　榮森景子

――発表の動機、テーマとポイントは?

今まで訪れたことのない香川県で開催される学会という点にまず興味を持ちました。やや不純な動機ですが、せっかく行くのであれば、学会参加を意義あるものにしようと思い、応募しました。

発表テーマは、重症心身障害者の骨代謝です。重症心身障害者は、歩行経験のない方がほとんどで、つまり寝たきりの生涯です。寝たきり患者は骨がもろく、骨折しやすいことが広く知られているものの、骨代謝についての報告はあまりありません。骨粗鬆症に対する治療を行うにも、寝たきり期間によって骨代謝は変化するのかといった疑問が出てきます。

私が勤務する西新潟中央病院には120床の重症心身障害者病棟があり、幼少期から人生の終わりまでを過ごされる方が多いため、長期にわたる骨代謝の記録や経過を見ることができると考えました。よって発表のポイントは、30年以上に及ぶ寝たきり期間を持つ患者の骨代謝について、調査・考察できた点にあります。このような特殊な環境と患者に出会うことができたのは大きな幸運であり、感謝も込めて「若手医師フォーラム」で発表させていただきました。

――英語での口演の感想、苦労した点は?

研究の対象患者や条件が極めて特殊であり、かつ結果も盛りだくさんでした。6分という時間でいかにうまく伝えられるか。内容をまとめることに非常に苦労しました。

また、私は英語をうまく話せませんし、発音もきれいではありません。練習の時に録音してみたら、あまりにかっこ悪くて落ち込みました。でも、すぐに直せるものではありませんから、とにかく聴いてくださる方に聞き取っていただけるように、ゆっくり明確に話すことを心がけました。

プレゼンは練習通りにできたと思いますが、質疑応答では早口になってしまい、先生方にお分かりいただけたかどうか、少し不安が残りました。とても緊張しましたし、座長やディスカスタントの先生方も怖く見えてしまいますが、試験とは違うので、自分の考えを発表できただけでも良かったのかなと感じています。

――参加してよかった点は?

演者の先生方には、きれいな英語を話す方が多いなと感じました。日頃から少しずつ何らかの形で英語に触れる意識をしようと思いました。

また、発表させていただけるだけで刺激になりましたし、それまでの準備においても非常に得るものがありました。若手医師にとっては貴重な場です。

――今後の目標を教えてください

当たり前のことをきちんとこなすことは本当に大切で難しい。私の専門は小児整形外科ですが、診断、適応、手術、後療法をしっかりできる医師になりたいですね。また、専門分野が学べる学会の演題採択を得られるようなテーマを、がんばって見つけたいと考えています。

患者の立場や気持ちに寄り添うことも大切ですが、治療行為に客観性や学問的な裏付けがあることは、医師として責任を持つ上で特に大事だと考えています。